

戦略企画会議から

Progress Report from the Strategic Planning Committee

第一委員会「人材育成・専門医制度」の取り組み

日眼の戦略企画会議では定期的に活動報告を日眼会誌上でを行っています。新型コロナウイルス騒ぎの影響もあって活動は停滞気味ですが、第一委員会が担当している「人材育成・専門医制度」について改めてご紹介させていただきます。

1年前、すなわち昨年の本誌1月号では、本委員会の目標である人材育成の一環として、将来の眼科の発展につなげるべく医学生の段階から眼科の魅力をアピールし、優秀な人材をリクルートしていくことを目標の一つに掲げているにもかかわらず、厚生労働省による都市部を中心とした容赦ないシーリングによって、第一委員会としては大きなジレンマに直面してい

る状況について紹介させていただきました。残念ながら1年経過した今日、事態はさらに深刻化しています。

それはともかく、第一委員会では当初の目標どおり、粛々と眼科の魅力を伝えるための講義用スライドを作成し、全国の基幹研修施設に配布しました(図)。内容としては、①眼科の重要性、②眼科における研究の魅力、③眼科サブスペシャリティの魅力、の3つのテーマから構成されています。

①眼科の重要性については、人間の感覚情報の80%は視覚から得られるというお馴染みの切り口から始まり、病変を直接観察し、診断できることのアドバンテージに加え、その眼所見が全身疾患診断に直結す

眼科は初診～治療まで自己完結

初診
↓
検査
↓
診断
↓
治療
↓
必要に応じ手術

内科と外科の両診療科の要素がある
自分自身で治した実感を得ることができる

眼科手術の魅力:多岐にわたる疾患と手技

ぶどう膜炎
眼瞼疾患
眼形成
白内障
水晶体再建術
角膜疾患
角膜移植
涙道疾患
涙道手術
硝子体疾患
網膜硝子体手術
網膜疾患
網膜硝子体手術
神経疾患
緑内障
眼圧下降手術
斜視
外眼筋の手術

人工網膜とは

ビデオカメラで撮影した画像を電気信号に変換し、残存する網膜の神経を刺激することで視覚を取り戻すシステム

人工網膜システム埋植後のX線像
電極を埋植した進行した網膜色素変性の眼底
視細胞が消失した網膜の内層の神経を、電流で刺激
電極は強電極ポケットに挿入
挿入した電極(40個)

網膜
脈絡膜
強膜

ぶどう膜炎診療の魅力

ベーチェット病
サルコイドーシス
強直性脊椎炎
真菌性眼内炎

眼を診ることによって、内に潜む全身病を診断することも可能

図 眼科の魅力を伝えるための講義用スライドの一例。

る可能性が少ないこと、眼科における診断方法や手術を含めた治療法は多岐にわたり内科的要素と外科的要素が含まれた診療科であること、女性医師が多く活躍している診療科であることなど、医学生が興味を引く内容と構成になっています。

② 研究面における魅力の紹介では、世界で初めてiPS細胞から作製された組織の臨床研究として培養網膜色素上皮細胞の眼内への移植、角膜上皮幹細胞疲弊症に対する自家培養口腔粘膜上皮細胞シート移植、さらに人口網膜の原理やシステムの紹介など、最新の情報と写真を掲載し、眼科における研究の魅力がアピールされた内容になっています。

③ 眼科におけるサブスペシャリティの魅力としては、具体的な眼疾患名を挙げ、眼科における診療の奥深さを伝えるようにしています。また、眼科ならではの近年の画像診断機器の進歩と、臨床応用が現実味を帯びてきたAIによる眼底画像診断のサポートシステムなどが紹介されています。

なお、このPowerPointによる講義用スライドの作成には近藤峰生委員をはじめとする第一委員会委員のほか、各分野に精通した先生方に画像等の資料提供を

お願いし、ご協力をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。また、本資料は全国の基幹研修施設に配布をしましたが、コロナ禍の中の配布でしたので、存在そのものにお気づきにならなかった方もおられたかもしれません。まだ、ご覧いただいていない場合には日眼事務局までお問合せください。多くの先生方にご活用いただければ幸いです。

さて昨年来、専門医制度生涯教育講座のe-learningへの移行につきましては検討中であることをお伝えしてきましたが、現在、日眼では記録担当の吉富健志常務理事を中心にホームページならびに会員管理システムをリニューアルすることになっております。日眼会員の皆様にとってより使いやすくなるようなシステム作りを検討中ですが、第一委員会としてはシステムがリニューアルされ、ホームページが整った段階でe-learningに移行し、オンライン上で生涯教育講座の問題を解いて回答していただくようにしていく予定です。一部には現行のFAXによる回答の送信を好まれる会員の方がおられることは重々承知しておりますが、これも時代の流れであり、何卒ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。